

# 冬号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜  
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17  
TEL 924-2194 FAX 924-2195

## 【みどりの教室】

日時：令和3年2月28日(日)  
10:00～12:00

場所：郡山カルチャーパーク 工作室

定員：10名

内容：ミニ盆栽づくり

受講料：無料

募集期間：令和3年2月5日(日) 9:00から  
令和3年2月14日(日)17:00まで

申込方法：電話又は窓口で受付。

定員を超えた場合は抽選になります。

## 【記念樹交付日】

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹申請者

日時：令和3年3月14日(日)10:00～15:00

**\*市内に住宅を新築または購入された方へ苗木を  
1本プレゼントしています。**

**申請期間は新築または購入日から1年以内です。**

**\*当日検温とマスクの着用をお願いいたします。**

## My ガーデニング

…季節のワンポイントアドバイス



### 【水やり】

今年はラニーニャ現象で寒い冬という予想がされていました。その通りに低温注意報が発令される事態となっています。郡山市の場合は、昨年暮れからの降雪も少なく生活するには楽かもしれません。しかし、昨年の秋からの降水量は極端に少なく推移しています。特に植え替えた場合や鉢植えの植物は、この時期でも水分を必要としています。山砂のような有機質を含まない土に植えた場合はなおさらです。暖かい日の午前中を選んで樹冠全体に水をあげてください。暖かい日を選ぶのは、あげた水が凍らずに根に届くようにするためです。冬の時期の水やりは寒くて面倒ではありますが、植物は水分を必要としています。また、乾燥、雑草などを抑えそして地面の凍結を防ぐためには、腐葉土などでマルチング(土壌表面を被う)をすると効果があります。

室内に取り込んでいる暖かいところを好む植物(ランなど)は、冷たい水をあげるのではなく少し温まった水をあげたほうが根を痛めません。

### 【植替え】

この厳寒期は、落葉樹も植え替えを控えたほうが良いです。落葉樹は二月下旬頃からが適期になります。そして、芽が動き出す三月いっぱいには終わらせるようにします。ただし、カエデ類やボケ、ボタンなどはこの時期では遅すぎます。カエデ類は、植え替えの際に切られる根や枝の切り口から樹液が流れ出るため、樹勢が落ちてしまい、カミキリムシなどの被害にあいやすくなります。

常緑広葉樹(ツバキやキンモクセイなど)は、暖かくなった三月下旬から新芽が開き出す前までが適期です。

マツなどの常緑針葉樹は、厳寒期が過ぎた時期から四月初旬までが適期になります。多くの樹種は、春の彼岸頃が一番の植え替えの時期で枯らしてしまうことが少ないと思います。作業は時期、植えこむ土壌、その後の水やりが特に大切です。植えこむ土壌は軟らかく有機質を含んで、水持ちがよく、排水性のある赤玉土 7割に腐葉土 3割を混ぜ込んだような土がベストです。

**【肥料】**

これからあたえる肥料(寒肥)が春からの今年一年の成長を左右する、とても大事な作業です。あげると端的に成長が変わります。寒肥に使用する肥料は、有機質緩効性肥料になります。代表的なものは油粕や有機質固形肥料になります。園芸店などで売られている骨粉入り発酵済み油粕が求めやすく向いています。樹木の大きさによって変わってきますが、高さが2mほどの大きさでしたら200ccコップ一杯位の量をあげます。また、少しくらい多くなっても肥料焼けは起きにくいです。2月下旬までには終わらせておくようにします。できれば、根のところにはばら撒いておくよりは樹冠の先端の直下に穴を掘って埋め込むようにすると肥料の流亡も少なく効果が高いです。

肥料の三要素はチッ素(N：茎葉の成長に効果がある)、リン酸(P：開花や結実に関係がある)、カリウム(K：根や茎の発達に効果がある)です。そのほかにも微量要素の物質があります。それぞれ多すぎても少なすぎても成長に影響が出ます。肥料のパッケージに書かれている数字がありますが、それが含まれている三要素の成分の量です。チッ素リン酸カリの順番で、成分量は%で表示されています。ただし、施肥はあげれば良いわけではなく、腐葉土や牛ふん、堆肥などを土にすきこんでいて、腐植質を多くしておくことも大切です。

植えこんだ樹木の成長がいまいちの場合はぜひ寒肥を行ってみてください。

**【病害虫】**

この時期だけに使用できる薬剤にマシン油乳剤や石灰硫黄合剤があります。退治しにくいアブラムシやカイガラムシに効果があります。

【カイガラムシ】ウメについたタマカタカイガラムシ



薬剤を使用しないときは、ブラシなどで掻き落とせばある程度は退治できます。昨年に発生した病気の枝葉は取り除き処分しておく、今年の発生を少し抑えることも可能になります。

**【剪定】**

マツは混みすぎた枝や葉を少なくし、風通しをよくして、風害や雪の重みから枝を守り、綺麗な樹形を作っていきます。この時期のほうが、弱らせてしまう確率は少ないと思います。コニファー類は春まで待って、刈り込んだほうが無難です。落葉樹は太い枝を切ることも可能です。しかし、だからと言ってむやみやたらに切ってしまうわけではありません。

切ることによって樹勢が落ち、樹形が取り返しのつかないような状態になってしまいます。加えて、花芽が少なくなったり、着きが悪くなったりします。強い剪定をすれば、強い枝が出るようになり、悪循環になります。できれば、毎年弱い剪定を行って、樹形を保つことが一番大切です。ヤマボウシやナツツバキなどの落葉樹の自然風剪定は、難しい作業です。切ることによって硬い感じになってしまい、その良さが失われてしまう事が、多々あります。常緑広葉樹は、暖くなる春以降に行うようにします。この時期に行くと風邪をひいてしまいます。

**【身近な樹木の紹介】 紅梅**

寒さが続く中でも早咲きの紅梅は、昨年暮れから蕾をふくらませ、少しずつではありますが、咲き始めています。一口に紅梅といっても、品種が数多く存在しています。今咲きだしている品種は、寒紅梅といわれるものです。寒空の中でも鼻を近づけると、梅の花の香りが漂ってきます。